



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

152



國家圖書館出版社

六月四日

六月三日



國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

152

國家圖書館出版社

第一五二冊目錄

昭和九年（一九三四）調查報告（第三十一期生）

洮安縣事情調查

洮安縣情況調查 圓谷清治 山内英之

吉扎嘎爾旗事情調查

吉扎嘎爾旗情況調查 圓谷清治 山内英之

札蘭屯、免渡河調查

札蘭屯、免渡河調查 奧田重信 白石博

滿州里調查

滿州里調查 奧田重信 白石博

第二十四卷第一編 一

第二十四卷第二編 一三

第二十五卷第一編 二〇九

第二十五卷第二編 二七一

興安省林西、林東一般事情調査

興安省林西、林東一般情況調査

三浦計太郎

中井川信雄

重松保徳

第二十六卷……………三四七

上海を中心とする最近の銀問題

近來以上海爲中心的白銀問題

林茂

第二十七卷第一編……………四二九

上海を中心とする支那財閥の研究

對以上海爲中心的中國財閥的研究

森次勲

第二十七卷第二編……………四六九

上海に於ける製粉業

上海的麵粉加工業

廉谷義忽人

第二十七卷第三編……………五四九

洮安縣事情調查報告書

第廿貳班

円谷清治
山内英之

兆安縣事情調查報告書索引

第一章 概況

頁

第一節 沿革

一

第二節 事變后般情勢

二

第三節 旱制及行政區劃

三

兆安縣全境圖

五、六

第二章 地誌

第一節 位置及面積

七

第二節 地勢

七

第三節 氣候

九

第三章 人口

第一節 人口及戶數

一三

第二節 人口動態

二三

第四章 交通

第一節 鐵道

二七

第二節 陸路

三一

第三節 水路

三二

第四節 通信機關

三三

第五章 治安及財政

第一節 治安

三五

第二節 財政

四三

第六章 家族及風習

第一節 家族關係

五三

第二節 衣食住

五九

第七章 産業

第一節 經濟の特質

五九

第二節 農業

五七

第三節 牧畜

六三

第四節 林業

六六

第五節 鉱業

六六

第六節 水産業

六六

第八章 工業

第一節 工業の概況

六八

第二節 土木建築業及電気工業

六九

第三節 工業資本の流入系統と将来

七〇

第九章 商業

第一節 商業概況

七一

第二節 主要商社と商業機関

七一

第三節 主要輸入品

七五

第十四節 主要移出品

七八

第十五節 物價

七九

第十六章 金融

融

第一節 通貨流通狀況

八一

第二節 金融機關及其業務

八二

第十七章 教育文化

八三

第十八章 社會

八四

第十九章 都市

九五

第二十章 古蹟

九七

第二十一章 宗教

一〇五

完

昭和九年度第三十期生第二十八回調査報告書

第二十四卷 奉天興安省洮安縣吉扎嘎爾旗事情調査班

上海東亞
圖書院

第一編 洮安縣事情調査

第一章 概況

第一節 沿革

暫く古は、清朝の初期地方一帯は蒙古糾察北右
扎薩克圖郡王の放牧地で、源しちき大平原を蒙古
人が羊馬牛を逐ひ、遊牧生活を送るゝた。然る彼等の

自然生活に対する脅威は、実に漢民族との接觸から来された。

即ち扎薩克圖郡王は其の臣僕増大の圧迫を緩和せんとして、洮
安の荒地を開放して、漢人は次第に其の数を増し、蒙古人
の佃戸として侵入し、為に弊害も少からず、車輪の才一歩を
作った。

光緒二十五年頃には漢人驅逐に関する理藩提
督となつたが、蒙古人は今や自乗自得、到底漢人の勢力は抜くべ
からず、僅かに新虎壘地に限する取締の法令を以たるも、同二十八
年に至り、漢人の経済的圧迫は遂に、自ら開放の余儀なきに

至らしめ、三十年には設治局が設けられ、靖安縣と改稱し、洮南府の管轄下に納つたが、民國三年、洮安縣と改め、洮昌道に屬せしめられた。

更に民國十七年、洮南の興、安、洮、公署の設置されるや、各縣も編入され、洮、河、流域匪徒の爲、洮索鉄道の敷設に力を傾けるに至つた。

第二節 事變後一般情勢

故、洮、事變の勃發するや、洮、公署解散し、洮、索、線は資余、調、達の都合上未だ開通を見ずして、故、洮、玉の手に納された。

洮、軍は江省に逃亡し、さしたる被害を蒙りし、洮、南、洮、安、地方は以前、排日最も盛なりし地方にして、一時は民衆の反感も強く、匪賊の出没も頻繁であつた。

然、洮、治、安、維持機關の整備

と一般情勢の变化とは一部少數の匪賊を除き、強人と呼ばれてゐるに至り、今日では平和郷を現出するに至つた。

更に最近特筆すべきは洮大線の敷設、洮索線の敷設、洮康線の開通は、果城白城子を單一的交通的要地たらしめ、日本人の進出目覚しく、本年一月十數名に過ぎざりし邦人が、一躍六百名を算するに至り、地方の開化と共に前途觸望するに足るものがある。

只、滿洲人一般は匪賊による被害、水害、疫病、物資の價格の創大容易に癒えず、夜警、大警を要するものがあるが、建軍等の時期として、万般の施政行き届かず、實際的效果は尙ほ此後に期すべきであらう。

第三節 果制及行政區劃

本県は奉天省の管轄下に屬し、三等県下あり従つて、是れは三等県の省令に依據する。

県公署の組織及現在の職員は次の如し。

総務科長 王盛貴

庶務股長 曹鴻賓 股員三名
文書股長 岳立山 股員三名
通 訳 駱文煥

内務局長 佟履謙

県長 張殿銘
参事 高橋光雄
副参事 稲田勝芳

行政股長 劉景星 股員三名
財務股長 高新民 股員二名
教育股長 姜鳳鳴 股員二名
実業股長 張尙義 股員二名

警務局長 李樹田
指掌 松本俊二
古賀 藤原金三

警務股長 田鴻賓 股員二名
司法股長 于宸耀 股員二名
通 訳 監察員 俞萬傍

冰安県

扎薩克圖王

本県は行政上之を八区に分り。(地圖参照)

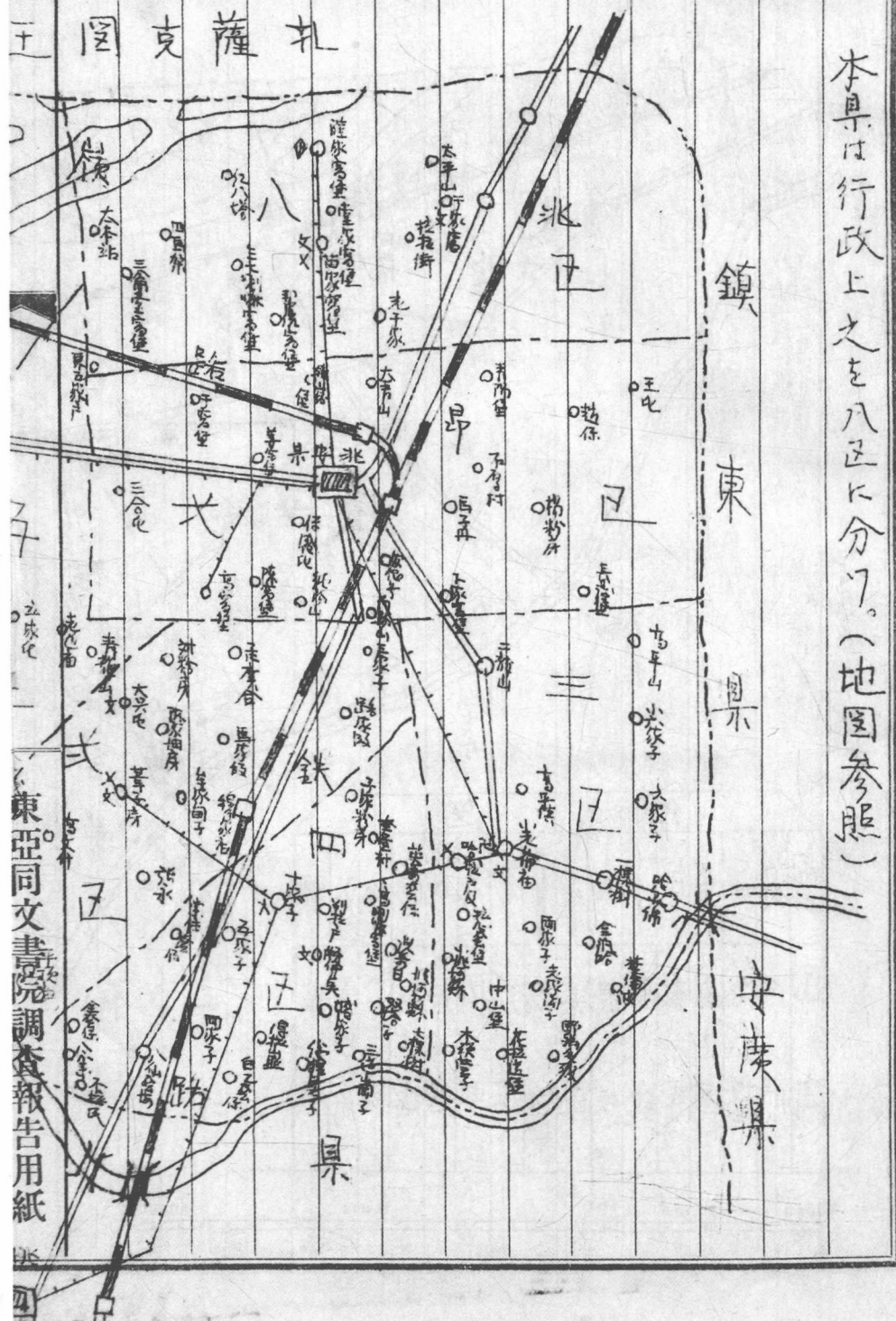
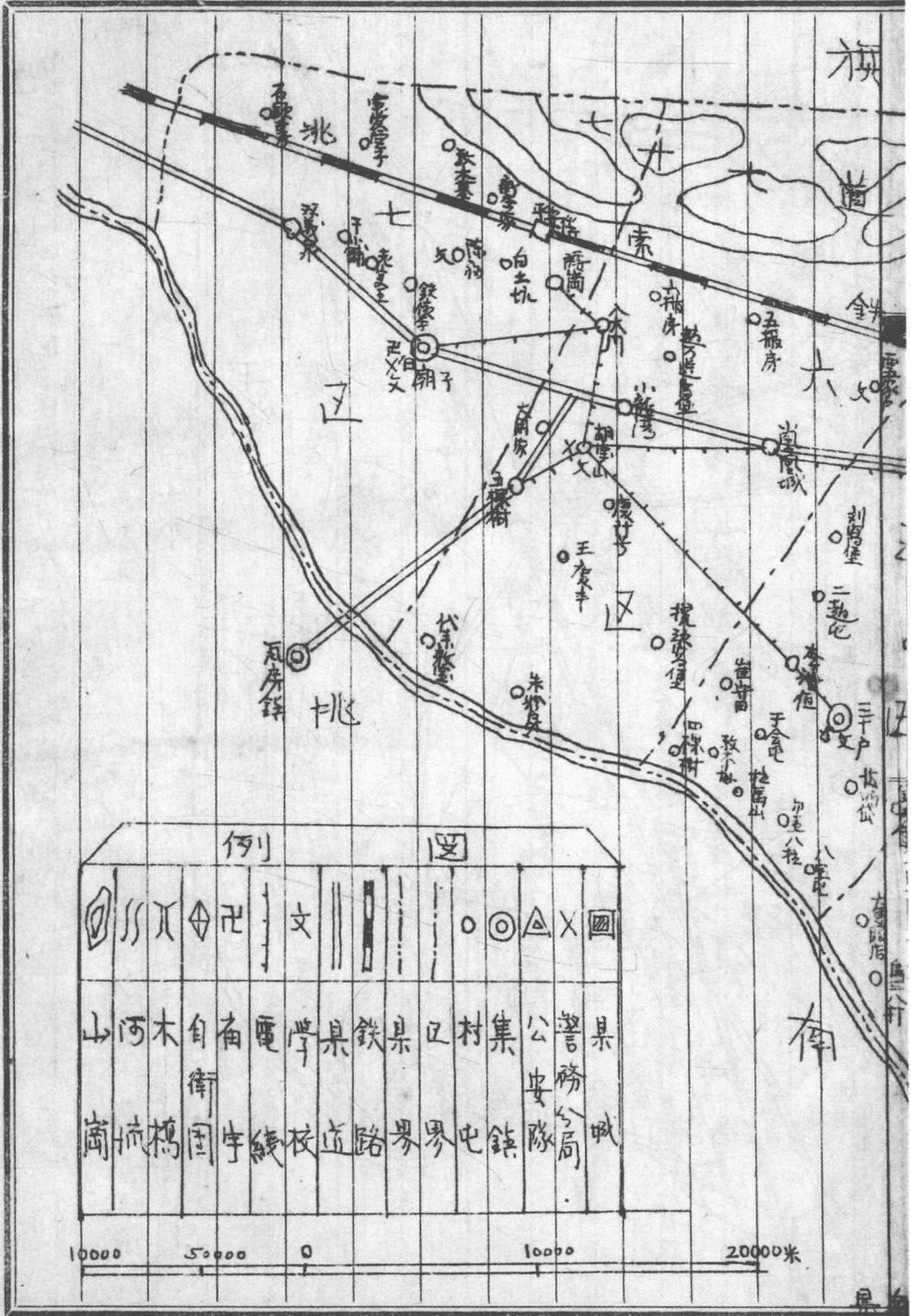


圖 境 6



第二章 地誌

第一節 位置面積

本県は奉天省の西北にあり、東経一二二度五分三〇秒、北緯四五度四十分二〇秒に互る。東は鎮東、安廣の両県に接し、南及西南は洮兒河を以て洮南県に隣し、北及西北は興安省扎薩克圖五旗と境す。

全県面積は未だ精確な調査なきに、八四〇〇方里（一二四万里）周囲約三百七十余支里あり。

第二節 地勢

本県は洮遼大平原の北部に位し、土地概ね平坦にして、低地及濕地又甚からず。但し北方に北大嶺ありて丘陵を爲し、南境洮兒河ありて界を劃す。